

まちづくり御来屋地区会議が炊き出し訓練実施

2月26日(日)に御来屋地区で「炊き出し訓練」が行われ、約100人が参加しました。地震による津波を想定し、高台の避難施設に食材を持ち寄り、炊き出しが行われました。

(訓練の企画・準備) まちづくり御来屋地区会議では、昨年から炊き出し訓練について議論してきました。特に、災害直後から救援物資が届くまでの間、食料をどのように確保するかが課題となりました。訓練の実施決定後は、地区の区長さんや御来屋婦人会に協力を依頼し、準備が進められました。

(食材の調達) 災害直後は各家庭にある食糧を持ち寄るしかありません。その確保の役目を地区の子どもたちに任せました。子どもたちには食材が保管されている家の地図が手渡され、自らの足で食材を調達しました。

(炊き出し) 子どもたちが調達してきた食材を婦人会が中心となり、調理作業が進められました。今回はおにぎり、豚汁、漬物が手際よく調理されました。

(電動シニアカーによる移動実証実験) 高齢化が進む御来屋地区では、移動手段の確保が重要な課題であり、電動シニアカー利用の実証実験が行われました。

御来屋地区をほぼ一周し、道の段差など要注意箇所のチェックや坂道の進行の確認などが行われました。

参加者の声



電動シニアカーの試乗

上り坂もスムーズに進むので大変有効。ただし、歩行時とは視界が異なるほか、道路の端を進むと段差があるなど注意も必要です。実際に乗りこなすまでには訓練が必要だと思いましたが(御来屋1区 加納郁生さん)。



炊き出し

まちづくり会議で事前に役割分担を決めたことでスムーズに炊き出しができました。若い人も参加していて、とてもよかったです(御来屋婦人会 深野三千代さん)。



食材の確保

地域の人と協力して食材を確保することが重要だとわかりました。災害が起こったら、自分たちがリーダーとなり、進んでやっていきたい(名和小学校5年 野川晴菜さん)。



まで御来屋地区の誰もが交流できる場所づくりに取り組んでいきたいと思えます。魅力ある御来屋をつくるためのまちづくりを進め、若者の定住につなげたいと考えています。

海に面した御来屋地区では津波がくれば、大きな被害が懸念されます。高台に非難しても救援物資が届くまでの間、住民の協力を得ながら、どう食べつなぐかを学ぶ必要があることをまちづくり地区会議の場で議論しました。また、地区住民が広く集まる機会がないので、炊き出し訓練という形で皆が集まる機会をつくろうと思えました。お年寄りから子どもまでたくさん参加していただき、大きな成果となりました。

まちづくり御来屋地区会議の今後の展望

今回の炊き出し訓練では、皆で協力して作業ができました。御来屋地区では高齢化が進み、また、空き家も多くなっています。この空き家を活用して、高齢者から子ども

まちづくり
御来屋地区会議
薩摩会長インタビュー

今回の炊き出し訓練実施について

